

発掘調査報告書第21集

昭和60年度国宝重要文化財等保存整備事業

# 高見原遺跡

—— 詳細分布調査報告書 ——

1986年 3 月

長野県教育委員会  
駒ヶ根市教育委員会

発掘調査報告書第21集

昭和60年度国宝重要文化財等保存整備事業

# 高見原遺跡

—— 詳細分布調査報告書 ——

1986年 3 月

長野県教育委員会  
駒ヶ根市教育委員会

# 序 文

今回ここに刊行の運びとなりました報告書は、高見原遺跡詳細分布調査の報告書であります。高見原遺跡につきましては、大正十五年三月発行の「先史及原史時代の上伊那」（鳥居龍蔵博士著）に掲載されて以来、広範な遺跡であり、なおかつ縄文時代から近世に及ぶ長い時代の遺跡として注目され周知されてきました。

今までの調査経緯を記しますと、昭和29年3月に開田工事に伴い横山（A）遺跡の調査が林茂樹先生指導の下に中沢中学校考古クラブ生徒の皆さんにより行われ、縄文時草創期（斜縄文）・草期（押型文）の遺物と奈良・平安時代の土師器が出土しています。さらに、昭和50年11月に「老人いこいの家やすらぎ荘」の建設に伴い、高見原遺跡横山B地点で、同用地の発掘調査が行われ、縄文時代前期末から中期初頭にかけての竪穴住居跡1軒、同時代の小竪穴16基が検出され、この遺構に伴い数多くの土器・石器が出土しています。また、昭和54年6月に「中沢保育園」の建設に伴い縄文時代前期末から中期初頭にかけての竪穴住居跡3軒、同時代の土壇111基、ロームマウンド3基の遺構と共に、数多くの遺物が出土しています。

幸いにも今年度におきましては、文化庁及び長野県教育委員会の御指導と御高配を得て、日本考古学協会会員林茂樹氏を団長とする高見原遺跡詳細分布調査団を編成して調査を行い、高見原遺跡の範囲（従来100,000㎡と想定）と性格をほぼ明確にすることができました。

長期間にわたって、分布調査をご指導下さいました林団長を初め、快く作業に参加していただきました地元の方々、地主の方々等、多くの皆様方のご協力とご厚意によりまして所期の目的を達成することができました。

ここに関係者の皆様方に心から感謝申し上げますとともに、この報告書が今後、地域の歴史研究の一助となることを念願する次第であります。

昭和61年3月20日

駒ヶ根市教育長 木 下 衛

# 例 言

1. 本調査は、昭和60年度国宝重要文化財等保存整備事業として、昭和60年10月21日から11月23日にかけて実施したものである。
2. 本調査は、国庫補助金（40万円）、県費補助金（12万円）、市負担金（28万円）により、埋蔵文化財補助事業として、駒ヶ根市教育委員会が中心となり駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会を組織して行った。
3. 分布調査の中で、遺構及びグリッド上層断面実測は小原晃一が行い、写真撮影は小原が担当した。
4. 遺物整理・報告書作成作業の中で、遺物実測・拓本・図面トレースは小原が担当し、写真撮影は林茂樹・小原が分担した。
5. 本書の執筆・監修は、林茂樹・小原が担当し、文末に明記してある。
6. 本書は、調査により明らかとなった遺構及び遺物出土状態、グリッド調査内容を図・表示することに重点をおき、文章記述は簡便とした。
7. 遺構・遺物関係の図面の縮尺は、その都度明示してある。
8. グリッド断面層位は、その都度明示してある。
9. 当遺跡の出土遺物及び諸記録・図面等は、市立駒ヶ根博物館が保管している。

# 目 次

序 文	
例 言	
目 次	

第I章 詳細分布調査の経緯	1
第1節 詳細分布調査に至るまでの経過	1
第2節 調査会の組織	1
第3節 分布調査作業経過	2
第II章 遺跡の環境	4
第1節 位置及び地形・地質	4
第2節 歴史的環境	5
第III章 詳細分布調査概要	7
第1節 調査概要	7
第IV章 出土遺物について	9

第1節 出土遺物 .....	9
第V章 総括 .....	15

## 図版目次

第1図 高見原遺跡位置図及び周辺遺跡分布図	
第2図 高見原遺跡詳細分布調査グリッド位置図	
第3図 分布調査グリッド出土主要遺物実測図1	
第4図 分布調査グリッド出土主要遺物実測図2	
第5図 分布調査グリッド断面土層図1	
第6図 分布調査グリッド断面土層図2	
第7図 分布調査グリッド断面土層図3	
第8図 分布調査グリッド断面土層図4	
第9図 分布調査主要グリッドG-82遺物出土状態実測図及び断面二層図	

## 写真目次

写真I 高見原遺跡遠景及び調査風景	
写真II 分布調査主要グリッド断面及び遺構1	
写真III 分布調査主要グリッド断面及び遺構2	
写真IV 分布調査主要グリッド断面及び遺構3	
写真V 分布調査主要グリッド断面及び遺構4	
写真VI 分布調査G-82遺物出土状態	
写真VII 分布調査グリッド出土主要遺物	

# 第 I 章 詳細分布調査の経緯

## 第 1 節 詳細分布調査に至るまでの経過

高見原遺跡は、大正末年発行の「先史及原史時代の上伊那」において確認・掲載されて以後、昭和 29 年の横山（A）遺跡、昭和 50・54 年の横山 B 地点の発掘調査(局部的)が実施されてきたが、遺跡の規模が 100,000 m<sup>2</sup> と広範囲でなおかつ、縄文時代早期から中期にかけての大集落と考えられ、さらに近世までの長い時代の遺跡として認識されてきた。

この為、当遺跡の遺物の包含状態や遺構の分布状態・範囲を確認する目的で、昭和 59 年 11 月 14 日に、県教育委員会文化課において昭和 60 年度文化財補助事業計画の事情聴取時に「詳細分布調査事業計画書」を提出し、昭和 60 年度事業として計上した。

以後、県教育委員会文化課と連絡協議を行う中で、当初調査面積 500 m<sup>2</sup>、調査費 120 万円であったが、調査面積 200 m<sup>2</sup>、調査費 80 万円、駒ヶ根市が事業主体として分布調査を行うこととなった。調査費内訳は、国庫補助金 40 万円、県費補助金 12 万円、市負担金 28 万円である。

事務手続きは、昭和 60 年 1 月 4 日付昭和 60 年度文化財関係補助事業計画書提出、同年 7 月 25 日付昭和 60 年度文化財関係国庫補助事業の内定(通知)、同年 8 月 20 日付県費補助金の内示(通知)、同年 5 月 8 日付昭和 60 年度文化財関係国庫補助事業申請書提出、同年 9 月 20 日付県費補助金交付申請書提出、同年 10 月 1 日付詳細分布調査届を経て、10 月 21 日より「詳細分布調査」を開始した。なお、国庫補助金交付決定通知は同年 10 月 28 日付、県補助金交付決定通知は 11 月 1 日付。調査は、駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会が行うこととし、高見原遺跡発掘調査団を編成し、団長には林茂樹氏をお願いし、11 月 23 日まで実施した。

## 第 2 節 調査会の組織（駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会）

顧問	鈴木義昭	(駒ヶ根市教育委員長)
会長	木下 衛	(駒ヶ根市教育長)
理事	小池金義	(駒ヶ根市教育次長)〈会長職務代理〉
〃	友野良一	(駒ヶ根市文化財審議会会長)
〃	松村義也	( 〃 副会長)
〃	林 赴	( 〃 委員)
〃	竹村 進	( 〃 委員)
〃	中山敬及	( 〃 委員)
〃	下村幸雄	(駒ヶ根市立駒ヶ根博物館長)

監 事 北沢晋六 (駒ヶ根郷土研究会会長)  
" 宮下恒男 (駒ヶ根市収入役)  
幹 事 北沢吉三 (駒ヶ根市教育委員会社会教育係長)  
" 原 茂 ( " 主任)  
" 野々村はるゑ(駒ヶ根市立博物館)  
" 斉藤香代 ( " )  
" 石澤真一 ( " )  
" 小原晃一 ( " )

● 高見原遺跡詳細分布調査団(事務所 駒ヶ根市上穂南2番15号 市立駒ヶ根博物館  
内)

団 長 林 茂樹 (日本考古学協会会員)<発掘担当者>  
調査主任 小原晃一 (長野県考古学会会員)< " >  
調査員 小町谷 元 (上伊那考古学会会員)

作業員 五十川長、松原清子、矢澤さよ子、清水新吉、宮下 錦、矢澤静子

協力者 中村文夫、林 吉十、渋谷吉子、下平チカエ、北原和枝、気賀沢進、田中清文、中沢保  
育園

見学者 白沢由美、小松原由里、倉田文和、宮沢美智子、北沢武志、市企画財政課、駒ヶ根東部  
土地改良区職員、駒ヶ根郷土研究会、赤穂公民館郷土史講座、中沢小学校生徒、朝日・  
中日・信濃毎日・南信日々・駒ヶ根日報各新聞社、駒ヶ根有線放送農業協同組合

<順不同、敬称略>

### 第3節 分布調査作業経過(調査日誌)

10月21日(月) 林団長、調査主任小原、小町谷調査員で、テント設営。高見原遺跡(東から西  
へかけて延びる舌状台地)の北・北西域低温地帯へ2×1.5mの調査グリッド  
28ヶ所設定。

10月22日(火) グリッド(以下、Gと略す)No.21・23・24掘り下げ。23・24共に60~100cmの  
深さがあり、地場下は攪乱(開造田時の)が顕著であるが、縄文中期土器片・  
硬砂岩剝片等が出土。

10月23日(水) G-19~22掘り下げ。G-21・22断面(北・西壁面)清掃。G-23・24断面線  
引き。G-24断面実測。G-22暗灰褐色~黒褐色土(表土より約110cm下)  
より木痕出土。

- 10月24日(木) G-12・14・15~17~20 掘り下げ。G-19 断面清掃。G-20~23 断面写真撮影・実測。
- 10月25日(金) G-6・11・12 掘り下げ。G-7~10 掘り下げ中途。G-15~18 断面清掃。G-15・17~19 断面写真撮影・実測。
- 10月26日(土) G-29~37 設定。G-3・5・7~10 掘り下げ。G-14・16 断面写真撮影・実測。
- 10月28日(月) G-1~4・29~35 掘り下げ。G-38~50 設定。G-36~39 掘り下げ中途。G-9~12 断面清掃・写真撮影・実測。G-9・10 に小ピットあり。
- 10月29日(火) G-31・32・36~40 掘り下げ。G-5・6 断面清掃。G-8・13 断面写真撮影・実測。G-38~40 より縄文中期土器片や黒耀石剝片出土。G-40 は縄文中期中葉~後半土器多し。
- 11月2日(土) G-43~50 掘り下げ。G-3・4 断面清掃。G-4~6 断面写真撮影・実測。G-43~48 は縄文中期中葉土器片が多く出土。
- 11月4日(月) G-46・50 掘り下げ。G-25・26 掘り下げ中途。G-8 写真撮影。G-36 写真撮影。G-5・7 断面実測。G-1・2 断面清掃・写真撮影・実測。
- 11月5日(火) G-51~64 設定。G-25~28・51 掘り下げ。BM6 設定L=661.700。BM7~9 設定。G-25~28・51 は深くて基盤まで1.5m位は掘り下げが必要。
- 11月8日(金) G-51・52 掘り下げ。G-53~57 掘り下げ中途。G-51・52 は暗赤褐色~黒褐色土にかけ縄文中期中葉土器片が多く出土。G-44・46 断面清掃。G-40~45 断面写真撮影・実測。
- 11月9日(土) G-53~57 掘り下げ。G-58・59 はローム層下まで掘り下げ。G-63・64 掘り下げ中途。G-44・46~48 断面清掃・写真撮影・実測。
- 11月11日(月) G-65~83 (舌状台地南側及び東側) 設定。G-61~68 掘り下げ。G-69・70 掘り下げ中途。G-62 より小ピット(柱穴か) 検出。G-63 より住居跡南東部及び立石検出。
- 11月13日(水) G-69~74 掘り下げ。G-49・50・60~64 断面清掃・写真撮影・実測。G-19・20 埋め戻し作業。季節は初冬の感が強く、あられが舞う。
- 11月14日(木) G-82~95 設定。G-75~81・89・90 掘り下げ。G-51~54 断面清掃。G-25~28 断面清掃・写真撮影。G-89 遺物多し。
- 11月15日(金) G-82~87 掘り下げ。G-82 は表土下25cm前後より縄文中期中葉土器3個体分出土。住居跡南東部と考えられる。G-25~28 断面実測。150~170cmと深く実測に手間がかかる。G-1~5、20 埋め戻し作業。
- 11月18日(月) G-82 拡張。縄文中期中葉土器(有孔鏢付土器あり)12個体分検出。G-55~59 断面清掃。G-51~54 断面写真撮影。G-51・52 断面実測。G-51 は深さ

168 cmを測る。遺物多し。

11月19日(火) G-1~18 21~24 埋め戻し作業。G-94 掘り下げ。G-55~57・82 写真撮影。G-53~57 断面実測。

11月20日(水) G-58・59・94 断面写真撮影・実測。G-25~28・49・51~59・61、60・62 (中途) 埋め戻し作業。G-82 遺物出土状態見学者の説明。

11月21日(木) G-39・67~72 断面写真撮影・実測。G-65・66 断面写真撮影。G-36~48・60・62~64・67~72 埋め戻し作業。G-95 (G-36・37の南側、崩れ土手断面) 写真撮影。

11月22日(金) G-65・66 断面実測。G-73~81・83~92 写真撮影。断面実測・埋め戻し作業。

11月23日(土) G-82 出土遺物平板測量 (S = 1 / 10)、断面実測 (S = 1 / 20)。G-29~35・93 断面写真撮影・埋め戻し作業。G-82埋め戻し。

11月25日(月) 器材整理。グリッド出土遺物袋詰め。本日にて、詳細分布調査終了する。

約1ヶ月間にわたり、初冬の霜や寒風の中で、分布調査に作業員として参加していただいた皆様の御理解と御協力により調査ができましたことに対して心から感謝の意を申し上げます。本当にありがとうございました。(小原晃一)

## 第II章 遺跡の環境

### 第1節 位置及び地形・地質

高見原遺跡は、駒ヶ根市大字中沢地区4,100番地代。菅沼区の2,400番地代地籍に広がる丘陵面上50,000㎡に所在する。このうちには、横山遺跡を含むが、更に北東部に久保垣外遺跡に接して、北西部において東原遺跡に接し、南部においては日向遺跡に接し、これを一括すると20ha近い大遺跡となる。交通上からは、駒ヶ根市赤穂元標から主要地方道駒ヶ根・長谷線を東方に向かい竜東に出て約6kmの地点南側丘陵上に位置する。

地形的に観れば、駒ヶ根市竜東地区は南流する天竜川の東側に平行して伊那山地が走り、その支脈が天竜川に迫ることが多く地形は西面する傾斜地が多いが中沢地区は、天竜川から水平距離7.5m東方に伊那山地の主峰戸倉山(1680.7m)がそびえ、その北西部に高鳥谷山(1331.1m)が天竜河谷に突出するように聳え、同じように戸倉山の南西部に陣馬形山(1445.3m)が河谷に突出する位置に起立している。この三山に囲まれた盆地上地形は、流出する下間川、新宮川等に浸食、開折されて中央に東麓から天竜川に向かう東西2,300m、南北750m測る大規模な舌状台地が形成されている。この台地を中沢台地と仮称する。この基盤は、フォッサマグナの境界上の内帯側に属する領家変成岩地帯で台地の上部は、東側山地から供給された厚い礫層とその上に堆積した厚さ6~7mの信州ローム層に覆われている。このローム層は、御岳火山噴出の火山灰

の洪積世堆積物と確定されている。本遺跡は中沢台地の先端部にその一支脈として形成された東西 500 m、南北 150 m、南側下間川との比高 50 mを測る舌状台地で天竜川との水平距高 1,500 m、比高 100 mを示し、風光豊かな地形を呈している。(高見原台地)

## 第 2 節 歴史的環境

本遺跡の地名「高見原」は、当地域の古村名高見村および中世の地頭高見氏に由来する残存地名であるが、考古学的に著名になったのは、大正 13 年、上伊那教育会主催による上伊那各地の出土遺物調査事業で、東京大学人類学教室鳥居博士の踏査により先住民族の遺跡地としてその著「先史及原史時代の上伊那」に「法昌寺」の地名で記載された。その後出土遺物がおびただしく採集され、中沢小学校郷土室に展示された。昭和 28 年中心部の 4,159 番地畑から縄文時代中期藤内Ⅱ期に所属する竪穴式住居址が発見され、中沢中学校郷土クラブ(指導林 茂樹)が発掘調査した。また同年 11 月台地尖端部南側の横山(A)遺跡が発見され同クラブによって発掘調査し、縄文草創期・早期、平安時代の遺物、遺構の存在が確認され、当時の全国学界に知られるようになった。続いて昭和 36 年横山 B 地点 2,402 番地に縄文中期初頭の竪穴式住居址 1 軒が同クラブによって発掘された。

昭和 50 年老人福祉施設「やすらぎ荘」建設に伴う記録保存事業として発掘調査が行われた。縄文時代前期終末の竪穴住居址 1 軒を発見した。学界未知の個性を持つ遺跡として注目された。

続いて昭和 54 年、中沢保育園建設に伴う発掘調査が東接地点で行われ、第 1 号住居址と同期の住居址 3 軒、土壌 111 基が発見された。また前記法昌寺は廃寺跡として注目され 4190 番地代は中世の遺物を多く出土している。

第 1 図は、1—高見原遺跡 2—横山 A 地点 3—横山 B 地点 4—日向 5—高見坪ノ内 6—城畑 7—高見城址 8—的場 9—門前 10—小山 11—羽前場 12—ごみ垣外 13—細久保 14—梨の木平 15—菅沼 16—菅沼城址 17—大楽寺跡 18—東原 19—徳光寺 20—小林 21—太座垣外 22—五郎垣外が分布している(第 1 図参照)。(林 茂樹)



## 第Ⅲ章 詳細分布調査概要

### 第1節 調査概要(第2図・一覧表参照)

舌状台地上に立地する高見原遺跡において、過去4回の小規模な発掘調査が実施され、また開田等により数多くの遺物が出土し、縄文時代草創～近世に至る長い時代幅を持つ遺跡であることと大規模な遺跡であることが確認されてきた為、今回の詳細分布調査では、舌状台地より低位の周辺部の分布調査に重点を置いた。

分布調査グリッド(第2図参照)を95ヶ所(内、G-95は土手が雨水害により崩落済断面)一東西軸2m(北壁とする)×南北軸1.5m(西壁とする)一を設定し掘り下げた。前記の如く、明らかに遺構や遺物が存在すると想定される土地及び耕作物のある土地は調査を省略した。

舌状台地の北側低位湿地帯にG-1～28・51～54を、舌状台地先端部にG-29～35を、舌状台地中央部にG-36～50・60～64・80～86・94・95を、舌状台地東側基幹部にG-87～91を、舌状台地傾斜地にG-55～59、南側傾斜地に65～79・92・93を設定した。

B・Mは、No.1～9まで設定し、断面実測の基準点とした。

グリッド断面は、北壁及び西壁を清掃し写真撮影を行い、S=1/20で実測した。

出土遺物は、各グリッドの出土層位別に一括して取り上げ、G-82(縄文時代中期中葉土器約12個体分)についてのみ、遺物出土状態をS=1/10で平板測量し、土器直上から表土(約25cm前後)にかけて、和紙一靱穀一籠ろじ一山砂一耕作土を覆い、次期の発掘調査等に備え埋め戻した。

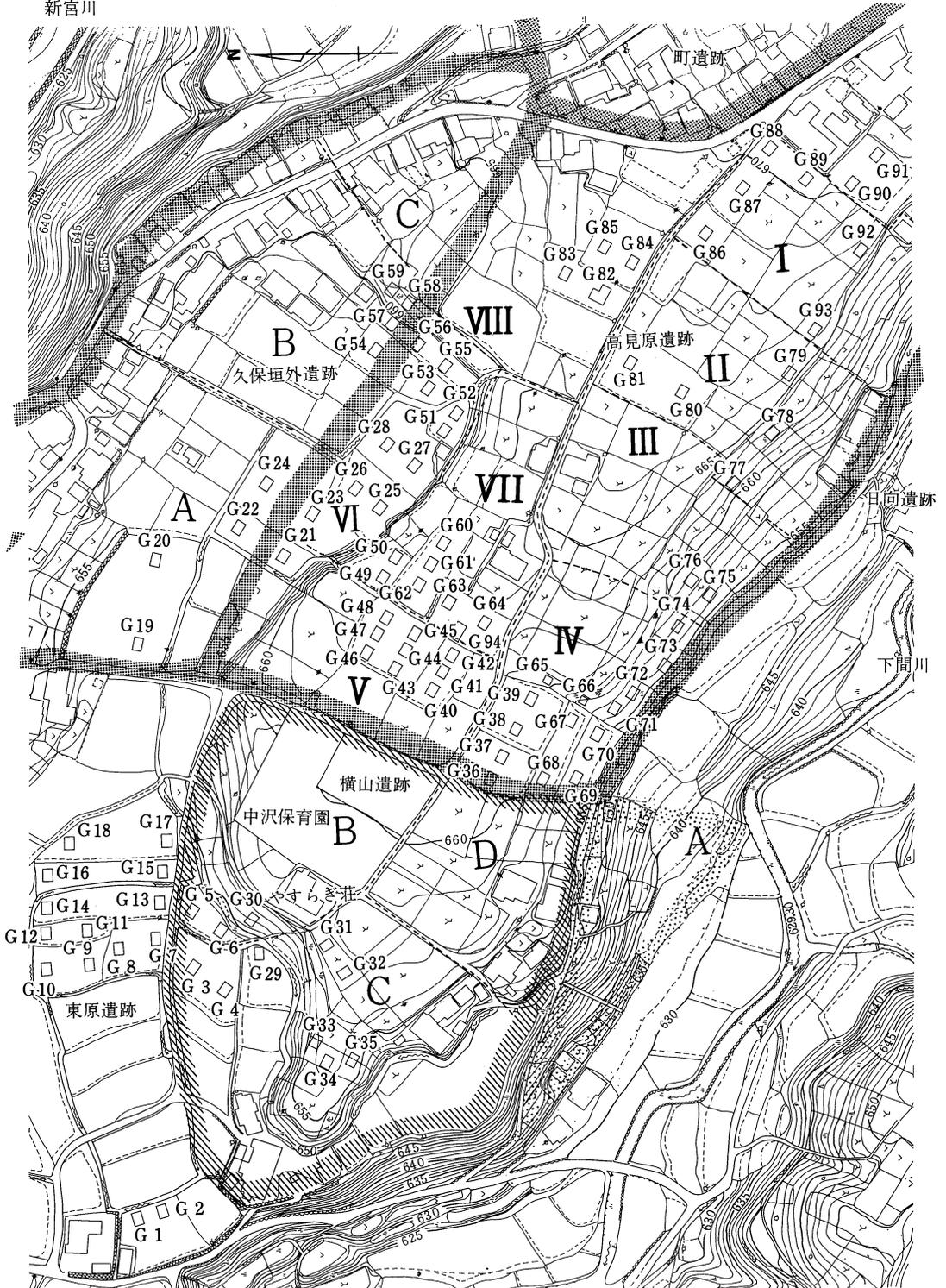
なお、掘り上げたG-1～94は、通称「たこ」を用いて地場締めを行い埋め戻した。

分布調査の結果、一覧表の様に、G-1より溝状遺構(近世以降のいわゆる「ガニ水路」の可能性もある)、G-9・10より小ピット(柱穴か)、G-14より土壌(ロームマウンド状のローム堆積もある)、G-18より小ピット、G-28より小ピット(深さ151cm下の為、性格は不明確)、G-36・42・47・80・81・83・87・94より縄文時代中期中葉として考えられる小ピットが検出された。ピット内は、いずれも暗茶褐色から黒褐色土で埋まる。G-46・64より縄文時代中期中葉～後半にかけての土壌が、G-82は縄文時代中期中葉の住居跡南東部、G-63は同中期中葉から後半にかけての住居南東部(立石を伴う)、G-88は同中期後半の住居跡が検出され、G-95の断面は住居跡状をなすが出土遺物が少なく判定できないが縄文時代中期の可能性が強い。

G-61より検出された小ピットは黒色土が埋まり、出土遺物とは異なるが、暗褐色土中からの掘り込みであり、「法昌寺」跡として伝承される遺構に伴うものとも考えられる。さらに、G-65・66は、以前から凹地状をなし「寺」への参道と考えられていた場所であるが、この傾斜道が「堀畑」と呼ばれることから、「堀址」又は「堀底道」の可能性が強い。

出土遺物は、今回の分布調査では、縄文時代中期中葉土器・同後半土器を主体として、同後～晩期・弥生時代、平安時代の灰釉、陶器、中世の古瀬戸、青磁等が出土している。(小原晃一)

新宮川



第2図 高見原遺跡詳細分布調査グリッド位置図 ( $S = \frac{1}{2000}$ )

## 第Ⅳ章 出土遺物について

### 第1節 出土遺物について

高見原遺跡（横山A・B地点を含む）においては、過去に縄文時代草創期（斜縄文系）、早期（撚糸文、押型文）の遺物が出土しているが、今回の調査では調査対象地区から周知及び調査済の箇所は省略したこともあり検出されなかった。

詳細分布調査により検出された主要な遺物は、ほんの一部分であるが、第3・4図を参照されたい。

#### <縄文時代土器>

**中期初頭** 第3図1～3は前期末から中期初頭に属するもので、口唇部に「半截竹管状施文具（以下、半截竹管と称す）」で刻み目をつけ、幅の狭い縦の平行沈線の地に幅広の横位沈線を施すもの（1）、ミミズばれの懸垂隆帯に連続爪形文をつけ地に横位の平行沈線を施すもの（2）、格子文を施すもの（3）がある。竈畑～梨久保式に位置付けられる。4・5は半截竹管により長方形の区画を行いRL斜縄文で充填し三角陰刻文～鋸歯状文、刺突文を施す。4は竈畑、5は九兵衛尾根II式。6はLR斜縄文の地に半截竹管で「楕円文」と蛇行文をつけ、7は横位平行沈線文と蛇行文により構成される。8は平行沈線文と蛇行文、9は平行沈線文と格子文により構成される。いずれも深鉢形。

**中期前葉** 貉沢式に位置付けられるもので、10～14がある。半截竹管による連続爪形文で長方形及び楕円形の区画をし、さらに縦位・横位の連続爪形文を施す。10は横・斜めの平行沈線をつけ、14は頸部を肥厚させた浅鉢で、半円形の刺突文を口唇部に平行に施す。

**中期中葉** 藤内I～II式に位置付けられるもので、15～26がある。基本的には粘土紐隆帯の貼り付けと幅広の半截竹管による連続爪形文により構成される。16・17・19が相当。15は隆帯に連続爪形文をもつ壺形状の土器口縁部、18はRL斜縄文の地に斜沈線・斜蛇行文をもつ口縁部、21は粘土紐の撚った隆帯と円形貼り付けと縄文を施す突起部、23はLR斜縄文、24は撚糸文により構成される。20は連続爪形文をもつ三角形隆帯と三角文、22は隆帯による三角区画文と斜条線により構成される。25は隆帯区画とLRの斜縄文をもつ胴部片の土製円板である。20・22は藤内II式で、外は藤内I式に位置付けられる。26は木の葉圧痕をもつ底部で胎土と調整により当類に含んだ。

**中期後葉** 27・28は近似し、縦の条線文を地に沈線による連続渦巻文（唐草文の初源か）をもつ。29はRL縄文の地に渦巻文を蛇行沈線及び隆帯貼り付けを行う「壺形」土器頸部、30～33は隆帯によるわらび手文を付け沈線を施すもので、30は突起部であり、いずれも深鉢形。30・35

は隆帯・斜縄文・列点文により構成され、35は結節縄文が見られ、36も同様。37は綾形文を施す。第4図1は、無頸甕で、RL縄文の地に同心円文を施し、連続爪形文を伴う隆帯と蛇行隆帯をもつ。

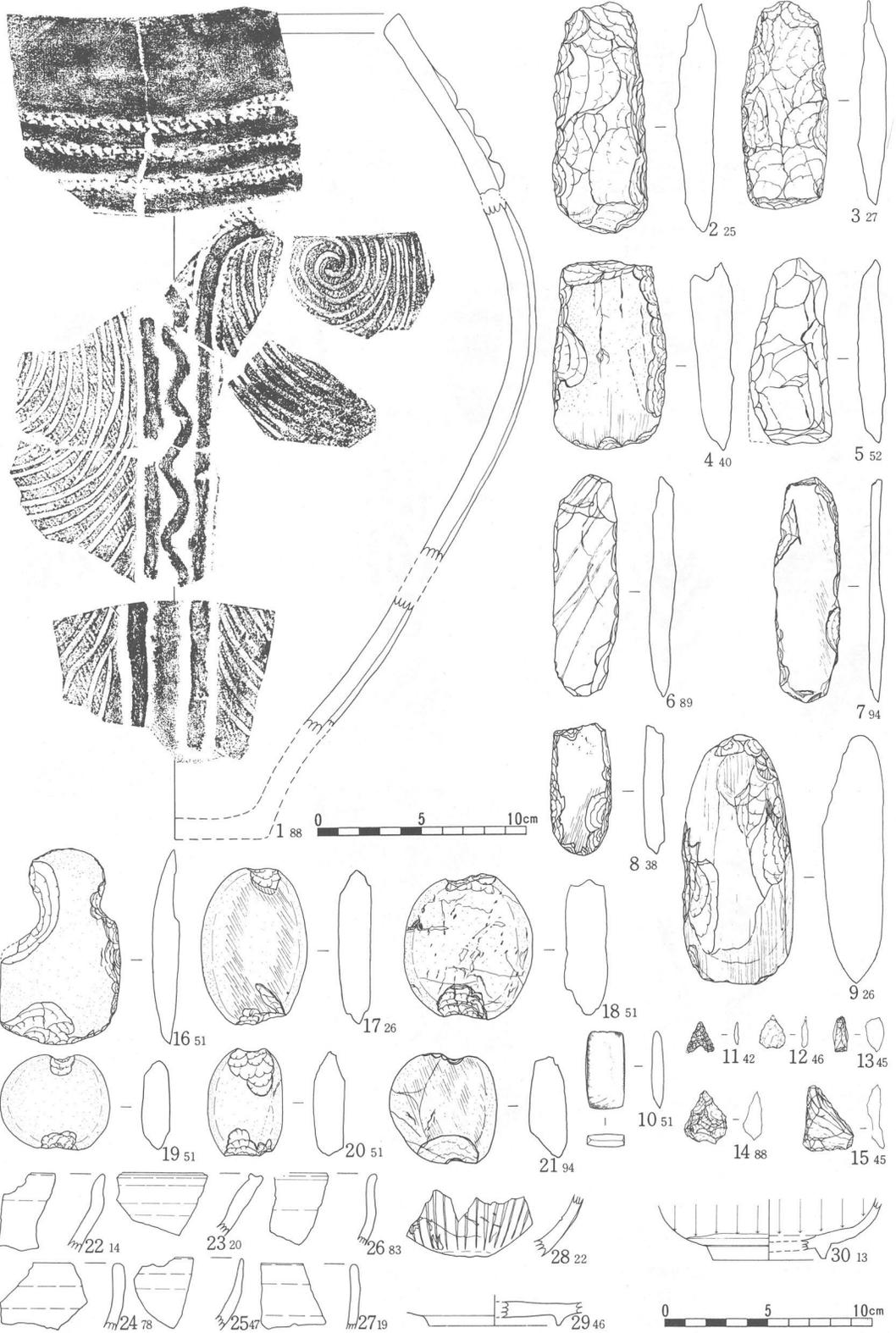
**後期前葉** 第3図38～41で、堀之内1～2式に位置付けられ、38・39は渦巻文と斜条線、40・41は隆帯貼り付けと刻み目をもつ。総じて堀之内2式の色彩が強い。

**<縄文時代石器>** 第4図2～21で、2～8は短冊形打製石斧で5・6は風化が顕著。9・10は磨製石斧。11・12・14は石鏃、13はピエスエスキュー、15はスクレイパーで、16～21は石錘。

**<中世～近世陶磁器>** 第4図22は天目茶碗、23は灰釉卸皿、24～27・30は鉄釉丸碗、29は青磁皿底部、28は高麗系青磁碗で沈線をもつ。22・23は室町時代古瀬戸後期(15C半ば)、外はいずれも室町末(16C末)から近世にかけて位置付けられる。 (小原晃一)



第3図 詳細分布調査グリッド主要遺物実測図1 (S = 1/3)



第4図 詳細分布調査グリッド出土主要遺物実測図2 (S=1/3)

分布調査グリット一覧表

G-No.	地番	深さ	基盤	遺構	出土遺物
1	菅沼2423-2	84	砂礫質ローム	溝状遺構	硬・剥2点
2	"、"	70	"	なし	J・晩～Y1点、灰1、近・陶1、黒・剥2、硬・剥2
3	"、2451-1・3	90	砂質ローム	"	なし
4	"、"	64	"	"	なし
5	"、2452	132	"	"	なし
6	" " "	135	"	"	なし
7	" " 2450	56	砂礫質ローム	( " )	湧水、なし
8	" " "	50	"	"	なし
9	"、2452	58	砂質ローム	小ピット	なし
10	"、"	48	"	"	なし
11	"、"	50	砂礫質ローム	なし	なし
12	"、"	67	砂質ローム	"	なし
13	"、"	72	砂礫質ローム	( " )	湧水、黒・剥1点、近・陶1点
14	"、"	62	砂質ローム	土 壙	J・中1点、古・天1
15	"、"	70	砂礫質ローム	(なし)	湧水、なし
16	"、"	70	砂質ローム	"	なし
17	"、2453-イ	76	"	( " )	湧水、なし
18	"、"	76	ローム	小ピット	なし
19	中割、4070～73	108	"	なし	古・天1点、輝・剥1
20	"、"	56	"	( " )	湧水、古・灰1点、石皿1
21	"、4077	104	"	小ピット	なし
22	"、"	130	"	(なし)	湧水、高・青1点、硬・剥1
23	"、4078-イ・ロ	78	"	"	(土管)、J・中葉3点、J・晩～Y1、磨り石1
24	"、4074-80	110	"	"	(木痕)、J・中3点、硬・剥1
25	"、4096	148	砂礫質ローム	"	J・中初～後半140点、打・斧5、半磨1
26	"、"	175	"	"	J・中初～後半50点、錘1、打・斧1、磨斧1
27	"、"	152	"	"	J・中初～後半280点、打・斧5、錘1、石匙1
28	"、"	151	"	小ピット	J・中2点、剥・器1、硬・剥4、木・剥1
29	菅沼、2419	45	砂質ローム	なし	なし
30	"、2416	8	ローム	"	J・中1点
31	"、2400-イ	46	"	"	なし
32	"、"	49	"	"	なし
33	"、2399-1	47	ローム・みそ土	"	なし
34	"、"	43	ローム	"	なし
35	"、"	46	ローム・みそ土	"	なし
36	中割、4184	55	ローム	ピット	J・中初1点、黒・剥1
37	"、"	30	"	なし	J・中1点、J・後1、打・斧1、硬・剥2
38	"、4185	34	"	"	J・中初2点、J・中後半2、打・斧2
39	"、"	26	"	"	ピエス1点、黒・剥1、硬・剥2、近・陶1
40	"、4182-3	96	"	"	J・中葉～後半80点、中末～後4、打・斧2
41	"、"	110	"	"	J・中葉1点、J・中後半2、硬・剥3
42	"、"	337	"	ピット	石鏃1点
43	"、4182-2	78	"	なし	J・中葉30点、土製円版1、打・斧1
44	"、"	60	"	"	J・中葉～後半20点、錘1、剥・石3、打・斧未1
45	"、"	40	"	"	J・中1点、ピエス1、スクレ1、黒・剥1、硬・剥1
46	"、4177	83	"	土 壙	J・中葉20点、打・斧未1、中・青1、剥・鏃1
47	"、"	40	"	ピット	J・中葉6点、チャート剥1、白磁1、硬・剥4
48	"、"	29	"	なし	J・中後半2点、硬・剥1、近・剥鉢1
49	"、4173	30	"	"	硬・剥1点、近・陶1
50	"、"	33	"	"	黒・剥1点
51	"、4098-ロ	168	砂質ローム	"	J・中葉73点、土製円版1、錘3、打・斧未6、外
52	"、"	114	"	"	J・中葉90点、J・後2、打・斧4、錘1、外
53	"、4098-2	144	"	"	J・中葉15点、土製円版2、J・後2、外

G-No.	地 番	深さ	基 盤	遺 構	出 土 遺 物
54	中割、4098-1	116	砂質ローム	なし	J・中葉3点、J・後2、古・灰1、凹石1
55	〃、4097-ロ	138	ローム	〃	J・中葉3点
56	〃、4099-2	135	〃	〃	打・斧未3点、硬・剥1、粘・剥1
57	〃、〃	196	〃	〃	打・斧1点、打・斧未1
58	〃、4100	52	〃	〃	なし
59	〃、4099-3	62	〃	〃	なし
60	〃、4176	33	〃	〃	打・斧1点
61	〃、〃	33	〃	小ピット	J・中葉～後半6点、打・斧2、硬・剥3、外
62	〃、〃	48	〃	ピット	J・中後半7点、敲打器1、石匙1、灰釉1
63	〃、4174	66	〃	住居跡	J・中葉～後半13点、土製円版1、古・灰1
64	〃、〃	70	〃	土 壙	打・斧未2点、硬・剥1、黒・剥1、頁・剥1
65	〃、4186-イ	153	みそ土	(堀 址)	J・中葉1点
66	〃、〃	127	〃	( 〃 )	なし
67	菅沼、2390-ロ	38	ローム	なし	なし
68	〃、〃	38	〃	〃	近・陶1点
69	〃、2390-イ	29	みそ土	〃	なし
70	〃、〃	31	ローム	〃	なし
70	中割、4186-ロ	75	みそ土	〃	なし
71	〃、〃	93	〃	〃	なし
72	〃、〃	44	ローム	〃	なし
73	〃、4187-イ・ロ	17	〃	〃	(攪乱)、硬・剥2点
74	〃、4189～90	33	〃	〃	( 〃 )、打・斧1点
75	〃、〃	23	〃	〃	( 〃 )、なし
76	〃、4194	30	〃	〃	( 〃 )、なし
77	〃、4196	8	〃	〃	( 〃 )、打・斧未1、近・青1、近・陶2
78	〃、4149-1	50	〃	〃	( 〃 )、なし
79	〃、4152～53	46	〃	小ピット	J・中初～中葉9点、硬・剥1
80	〃、4141～42	47	〃	〃	J・中葉15点、錘1、未斧未1、近・陶1
8	〃、4105-1	28	〃	住居跡	J・中葉完形土器12個体、打・斧、外
83	〃、4105-2	48	〃	ピット	J・中葉37点、錘1、打斧未2、近・陶3、外
84	〃、4105-3	36	〃	なし	J・中葉1点、J・中後半1、打・斧未1、硬・剥1、外
85	〃、4106	46	〃	〃	J・中初～中葉30点、打・斧未1、剥・器1、外
86	〃、4140-2	40	〃	〃	剥・石2点、黒・剥1、近・陶1
87	〃、4140-1	31	〃	(小ピット)	J・中葉7点、J・中後半1、土製円版1
88	〃、4139	47	〃	住居跡	J・中後半250点、J・中葉2、石鏃1、打・斧2、外
89	〃、4144	52	〃	なし	J・中後半40点、J・中葉4、打・斧1、凹み石1、外
90	〃、4137	35	〃	〃	なし
91	〃、〃	27	〃	〃	J・中後半4点
92	〃、4144	39	〃	〃	(攪乱)、なし
93	〃、4146	56	〃	〃	( 〃 )、なし
94	〃、4184	68	〃	ピット	J・中初15点、J・中葉8、J・中後半30点、外
(95)		(135)	〃	(住居跡)	硬・剥3点

(註) 深さの単位はcm、出土遺物は点類である。他の遺物も若干出土している。

J・中	= 縄文時代中期土器片	磨・斧	= 磨製石斧
J・中初	= 〃 中期初期土器片	錘	= 石 錘
J・中初～後半	= 〃 中期初頭から後半の土器片	剥・鏃	= 剥片石鏃
J・中葉	= 〃 中期中葉土器片	打・斧未	= 打製石斧製作時欠損品
J・中後半	= 〃 中期後半土器片	半磨・斧	= 半磨製石斧
J・後	= 〃 後期土器片	硬・剥	= 硬砂岩剥片
J・晩～Y	= 〃 晩期から弥生時代の土器片	粘・剥	= 粘板岩剥片
灰釉	= 灰釉陶器 (平安時代)	輝・剥	= 輝緑凝灰岩剥片
古灰	= 古瀬戸灰釉陶器片	ホ・剥	= ホーンフェルス剥片
古・天	= 古瀬戸後期天目茶碗片	黒・剥	= 黒曜石剥片
中・青	= 中国青磁器片	緑・剥	= 緑泥片岩剥片
高・青	= 高麗青磁器片	頁・剥	= 頁岩剥片
近・陶	= 近世陶器片	ピエス	= ピエスエスキュー
近・青	= 近世青磁器片	スケレ	= スクレイパー
打・斧	= 打製石斧	剥・石	= 剥片石器

## 第V章 総括

以上、高見原遺跡群の詳細範囲確認調査実施状況について詳述したが、ここで概括してみたい。

### I 遺跡の範囲確定について（第2図参照）

高見原遺跡をめぐる接する数遺跡に係わりながら計15haに95個のグリッドを設定し、掘の結果、包含層及び出土遺物・地形等を総合して次のように遺跡の範囲及び面積を公図上に明示することになった。

- 1、高見原遺跡(国遺跡台帳番号2711号)約7haに展開し、第1～第9地点迄9区分した。
- 2、横山遺跡(7287号)約3haを、A地点からD地点まで4区分した。(高見原丘陵内)
- 3、久保垣外遺跡(2691号)約3.3haを、A地点からC地点まで3区分した。(高見原に東接)
- 4、東原遺跡(2701号)約9haを、A地点からE地点まで5区分した。(高見原に北接)
- 5、下間遺跡(2696号)約4haを、A地点からC地点まで3区分した。(高見原の南側低地)
- 6、町遺跡(市No.130)高見原城跡を含む中世町屋跡所在地は別途調査の必要あり。

### II 各遺跡の性格、内容を各地点別に概括して見よう。

1、高見原遺跡 遺跡の範囲全域に亘って遺物散布包含状態が認められ、遺構も出土しており、縄文時代、集落址、中世の居館が濃密に存在することが予察される。次表に示す。

地点名	地番	地目	面積a	地形	所属時代	遺構	遺物
第I地点	4140他2筆	水田 畑	91 (130×70)	稜線上平地 南傾斜	(縄) 中期初頭 中葉 後葉 (歴) 中世	小竪穴	土器(踊場式、藤内式、曾利式) 石錘、磨斧、打斧、石鏃、土製円板、石棒、石皿、古瀬戸皿
第II地点	4141他20筆	畑 宅地	91 (130×70)	稜線上平地 南傾斜	(縄) 前期後葉 初頭 中期中葉 後葉 (古) 後期	埋 甕 勾 玉	土器(踊場式、大蔵山式、藤内式、曾利式) 石鏃、磨斧、打斧、石鏃、石匙、石棒、石皿、勾玉
第III地点	4159他12筆	畑 宅地	88 (110×80)	稜線上平地 南傾斜	(縄) 中期中葉 後葉 後期 (歴) 中世	竪穴住居址 1軒	土器(藤内式、井戸尻式) 石鏃、石皿、石斧、額面把手、土偶、打斧、石匙、配石、古瀬戸灰釉、石棒
第IV地点	4184他9筆	畑 水田	77 (70×110)	稜線上平地 南傾斜	(縄) 中期中葉 後葉 (歴) 中世	竪穴式住居 址1軒 溝渠址館址	土器(藤内式、井戸尻式、曾利式) 古瀬戸灰釉壺、皿
第V地点	4183他8筆	畑 宅地	77 (110×70)	稜線上平地 北傾斜	(縄) 中期中葉 後葉 (歴) 中世	住居址埋甕 (伝) 法昌寺跡	土器(藤内式、井戸尻式、曾利式) 石斧、石匙、石鏃、緑釉碗、鉄釉壺

地点名	地番	地目	面積 a	地形	所属時代	遺構	遺物
第VI地点	4096他7筆	水田 畑	80 (40×200)	北側凹地 湿地帯 (湧水)	(縄) 中期初頭 中葉 後期前葉 (弥) 後期 (歴) 中世	包含層が深い	土器(踊場式、井戸尻式、 曾利式、堀ノ内式) 石斧、石匙、石鏃、砥石、塗彩 鉢、青磁
第VII地点	4174他16筆	水田 畑 宅地	84 (70×120)	稜線平地 北傾斜	(縄) 中期中葉 後葉 (歴) 中世	竪穴住居址 土壇 埋甕 柱穴	土器(五領ヶ台式、藤内式、 井戸尻式) 古瀬戸灰釉
第VIII地点	4105他11筆	水田 畑 宅地 工場	(70×130)	稜線平地 北傾斜	(縄) 中期初頭 中葉 後葉 (歴) 近世	住居址 柱穴	土器(梨久保式、藤内式) 土偶、石鏃、石匙、石鏃、石斧、 近世陶器
第IX地点	4132他4筆	宅地	48 (60×80)	稜線上平地	(縄) 中期初頭 (歴) 室町(現存) 近世(現存)	十王堂 石仏群	土器(曾利) 内耳土器片

なお、この9地点は、いずれにおいても重要で軽重を問うことはできない。特に第VI地点は北川の凹地で当時の湿地帯または湧水地点としての性格を持ち縄文時代の生活遺構として重要な鍵を握っている地点である。包含層が深いことから過去には遺跡地としては軽視されていたが今やその内包する価値は極めて高く、今次調査の画期的成果の一つとして評価してよい。

2、横山遺跡 高見原丘陵の西方最先端部にあたり、菅沼区領界内に位置する。比較的、公開発が進み、記録保存事業はB地点で実施されている。舌状丘陵の突端部という条件からか、学術的に貴重な遺物が多く出土する。今後の保護措置に十分留意すべきである。次表の通り。

地点名	地番	地目	面積 a	地形	所属年代	遺構	遺物
Loc A	2382他12筆	畑 及 墓地	60 (60×100)	南傾斜地 テラス	(縄) 草創期末葉 早期前葉 (歴) 平安	炉址 竪穴式住居 1軒	表裏縄文土器 押型文土器 剥片石器・田戸下層 灰釉陶器・土師器
Loc B	2408他7筆	畑 宅地	80 (100×80)	丘陵突端 部北緩斜	(縄) 前期末葉	竪穴住居址 4軒 土壇127	深鉢(籠畑式並行) 石斧、石匙、石鏃
Loc C	2402他11筆	畑 宅地	90 (100×90)	丘陵突端 部南緩斜	(縄) 早期後葉 中期初頭	竪穴式住居 址1軒	茅山式土器(下層) 九兵衛尾根II式土器 石斧
Loc D	2406他9筆	畑 宅地	72 (90×80)	稜線上平 地南緩斜	(縄) 早期 中期後葉 (歴) 平安・室町	竪穴住居址 1軒	〈撚糸文土器〉 曾利式土器、石斧、 青磁、古瀬戸陶 灰釉陶

A地点の縄文草創期及び早期の遺跡は、県内でも数少ない遺跡の一つで極めて貴重であったが、昭和60年8月、土地改良事業によって潰滅したのは誠に遺憾である。B地点の大半は老人憩いの家、中沢保育園建設のため記録保存事業として発掘調査され、学会未知見の縄文前期末葉の集落址を検出した。この南接地点の保存措置が重要な課題となろう。C・D地点共に縄文時代から歴史時代の複合遺跡であり、全域が重要な遺構遺物で満たされている。現状保存の必須の地域である。

3、隣接する4遺跡の境界付近に設けたグリッドの所見は、「分布調査グリッド一覧表」を参照されたい。久保垣外遺跡ではグリッド51・54で縄文、歴史時代の遺物を出土し、東原遺跡ではグリッドNo.2・13・14等から縄文時代から歴史時代の遺物を出土し低湿地遺跡として注目される。下間遺跡の隣接地は今後十分注意したい。

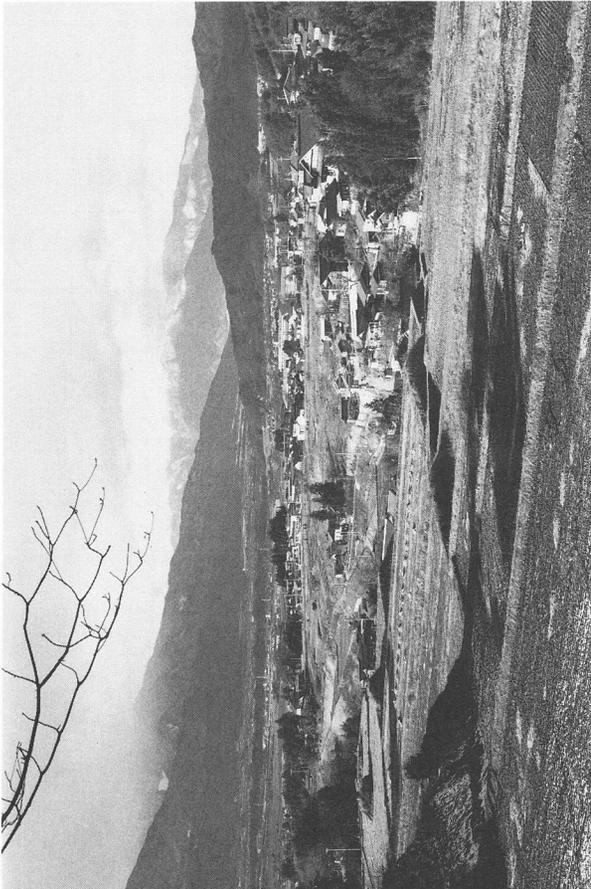
以上、高見原遺跡遺跡を総括したが、地形学的に著名な天竜川河岸段丘上の大規模な舌状丘陵10haに亘って形成された縄文時代中期集落址は、学術上、教育上極めて貴重な存在で、国民的財産として永世に保存すべき価値を内包している。今後の保護行政の方向に期待したい。

終わりに県教委ならびに市教委関係各位および調査に協力された方々に深く御礼を申し上げます。  
(林 茂樹)



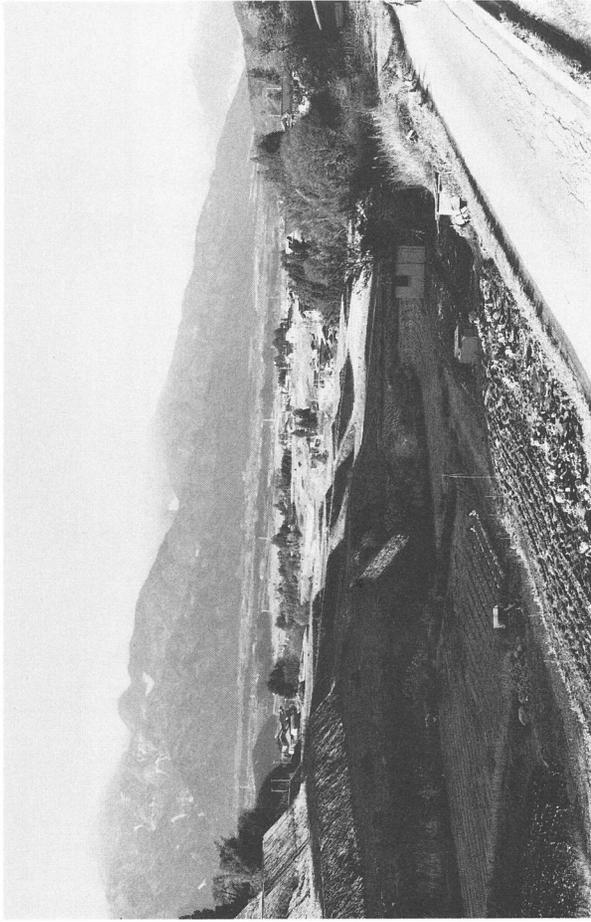
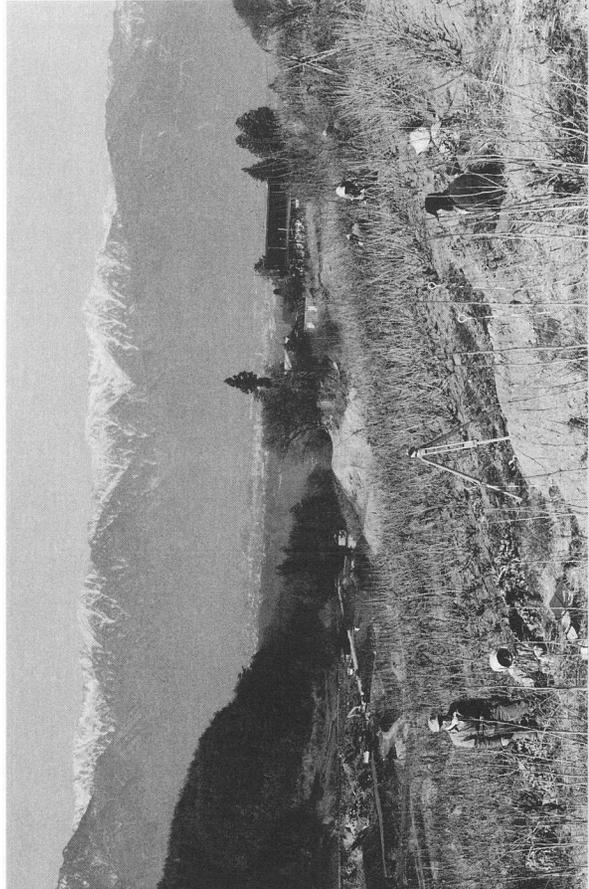
版 圖





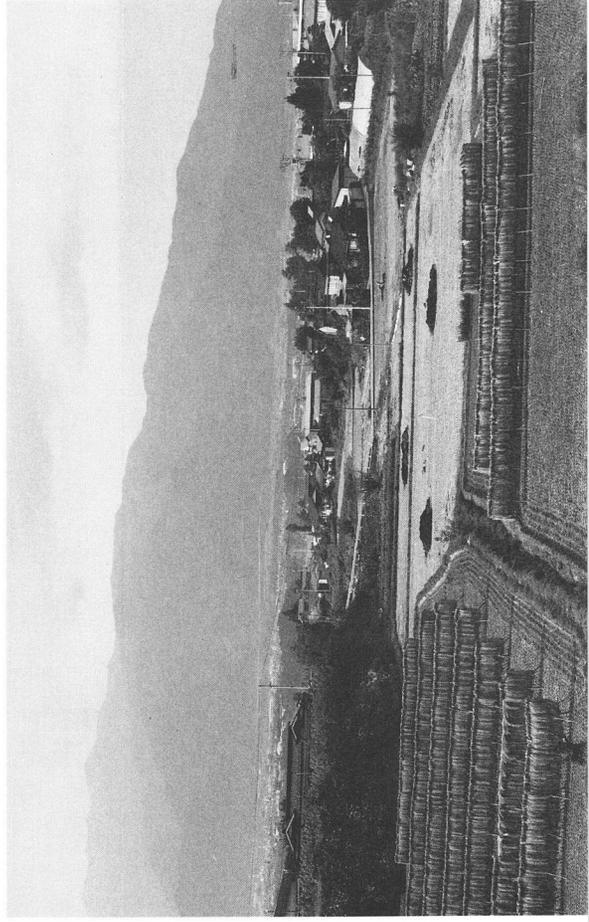
1. 高見原遺跡遠景 (南より臨む) —中央台地—

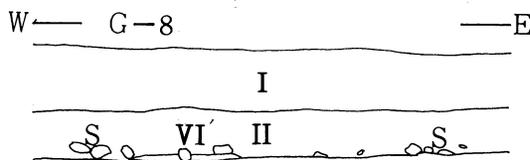
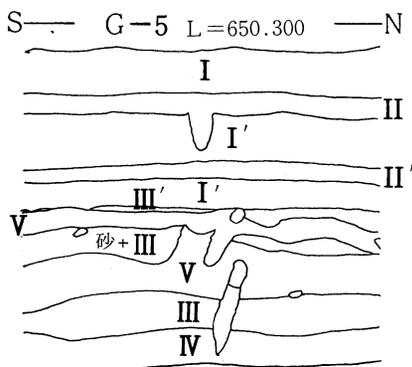
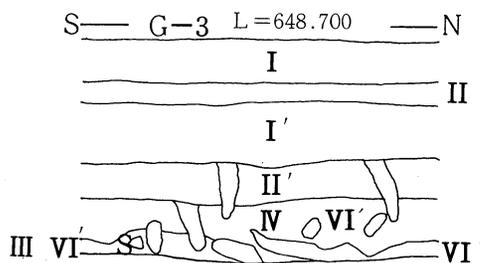
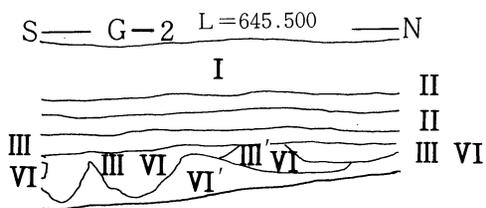
3. 遺跡地南側傾斜面調査風景 (東より臨む)



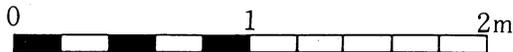
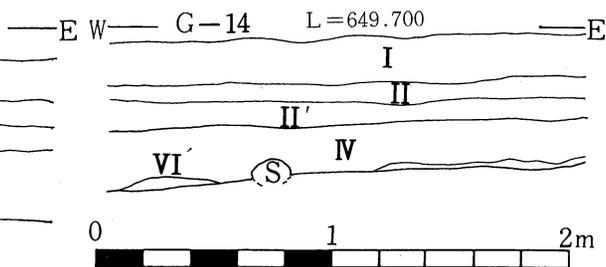
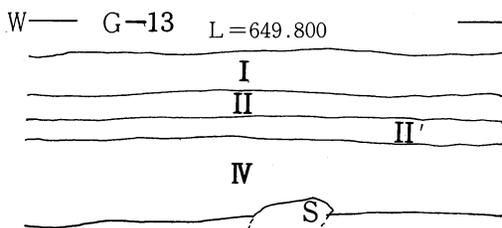
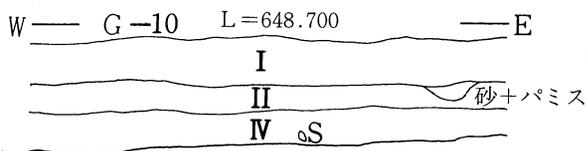
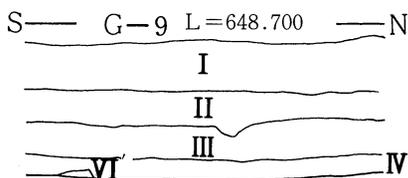
2. 高見原遺跡遠景 (南東より臨む)

4. 遺跡地北側低湿地面調査風景 (東より臨む)



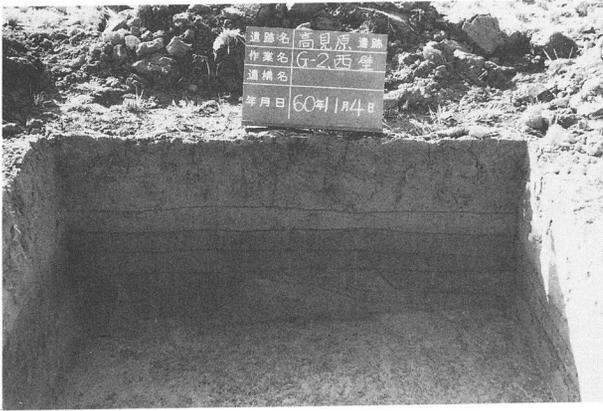


- I - 粘質灰褐色土 (表土)
- I' - 灰褐色土 (旧表土)
- II - 明灰褐色土 (地場)
- II' - 灰褐色土 (旧地場及び埋土)
- III - 茶褐色土
- III' - 褐色土
- IV - 暗茶褐色土
- IV' - 暗褐色土
- V - 黒色土
- V' - 黒褐色土
- VI - 黄褐色土 (ローム層)
- VI' - 暗黄褐色土 (ローム漸移層)
- VII - みそ土
- S - 礫

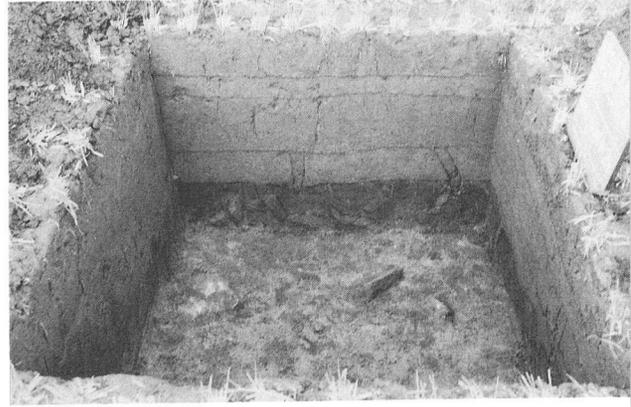


第5図 分布調査グリッド断面土層図1

1. G-2 西壁断面



2. G-3 西壁断面及び基盤状態



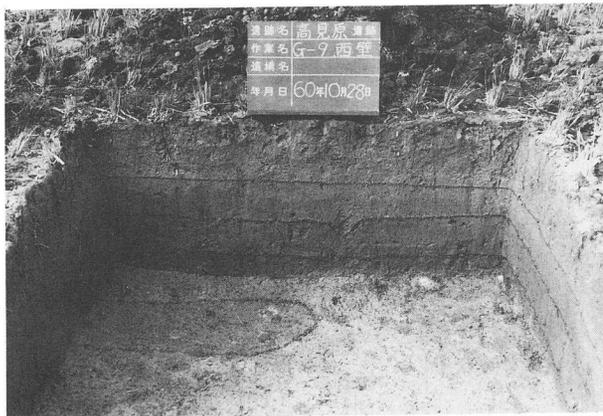
3. G-5 西壁断面



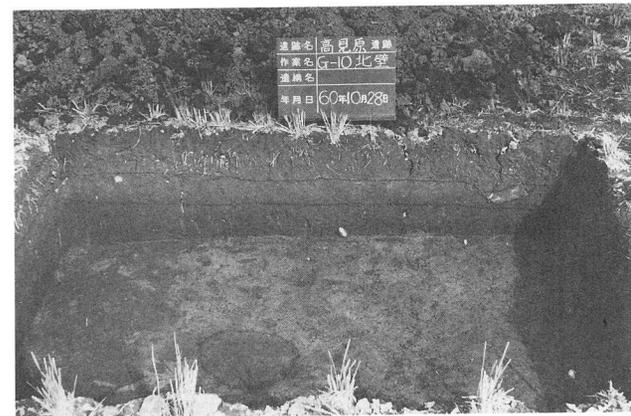
4. G-8 北壁断面



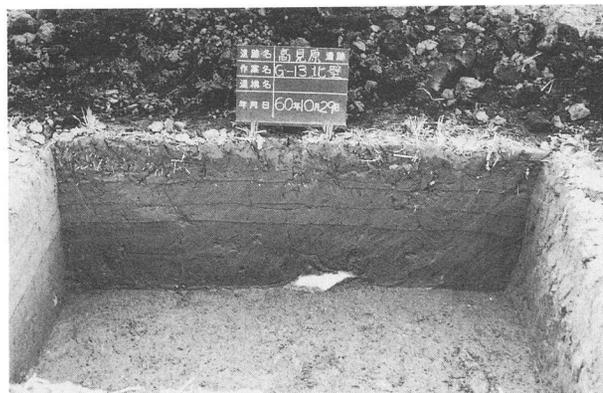
5. G-9 西壁断面及びピット検出状態



6. G-10北壁断面及びピット検出状態

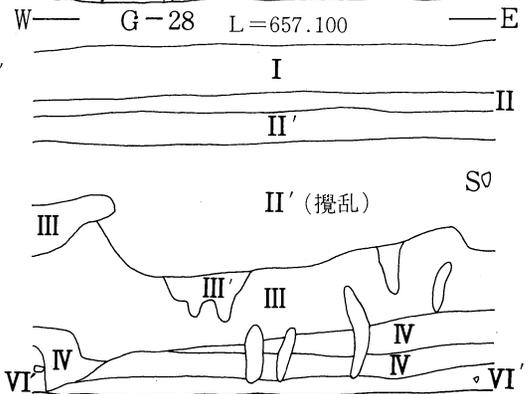
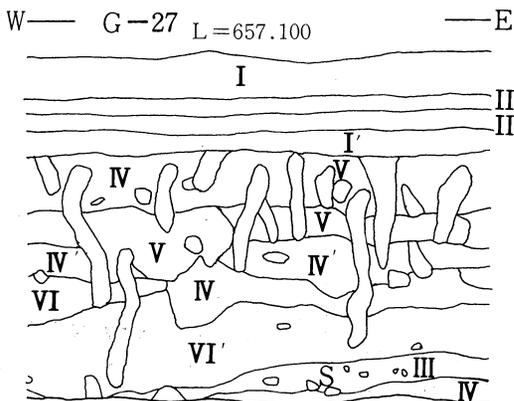
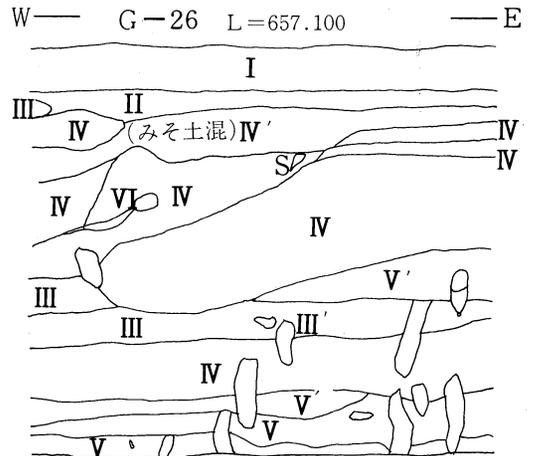
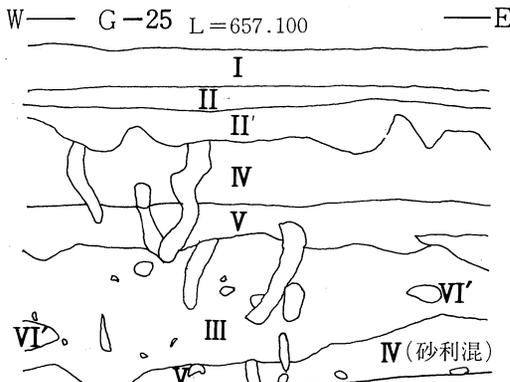
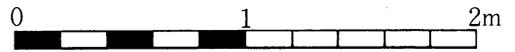
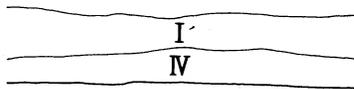
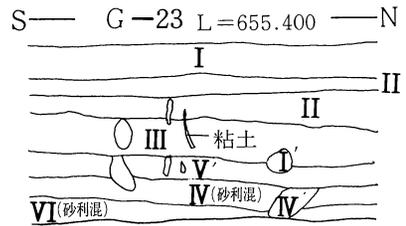
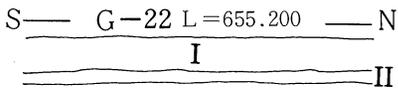
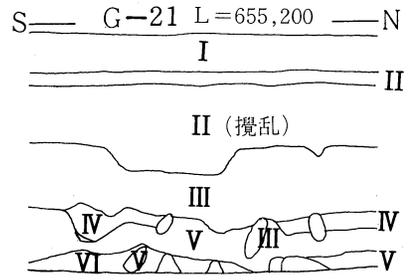
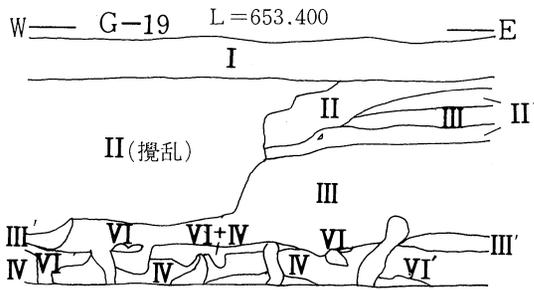


7. G-13北壁断面



8. G-14ピット及びロームマウンド? 検出状態



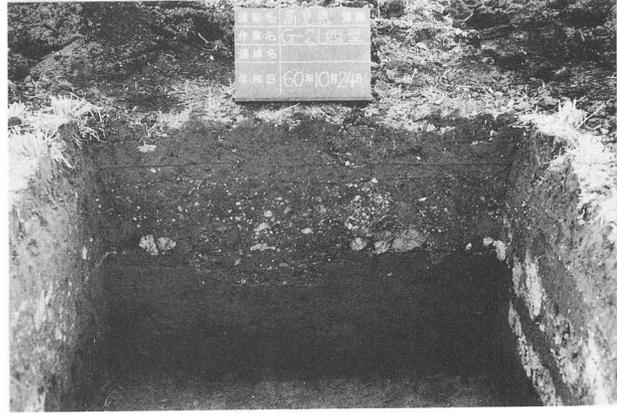


第6図 分布調査グリッド断面土層図 2

1. G-19北壁断面



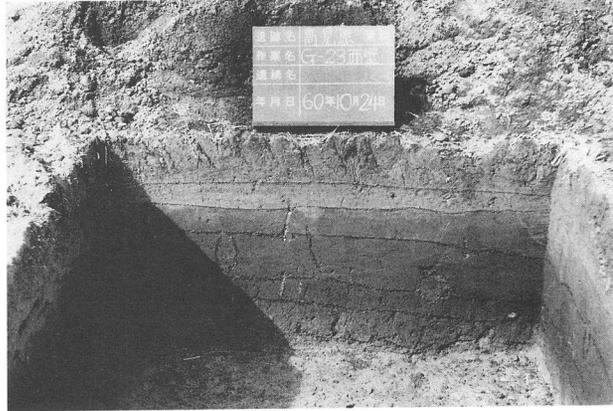
2. G-21西壁断面



3. G-22西壁断面



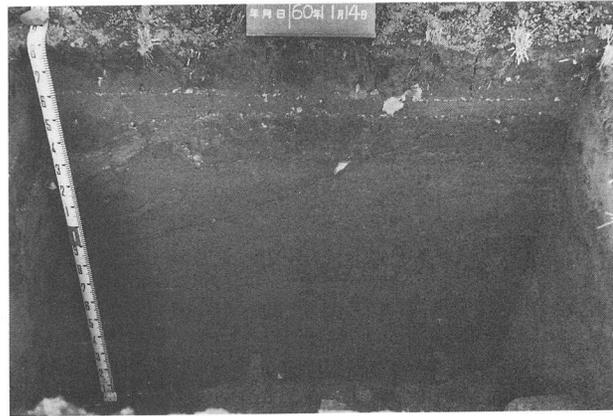
4. G-23西壁断面



5. G-25北壁断面



6. G-26北壁断面

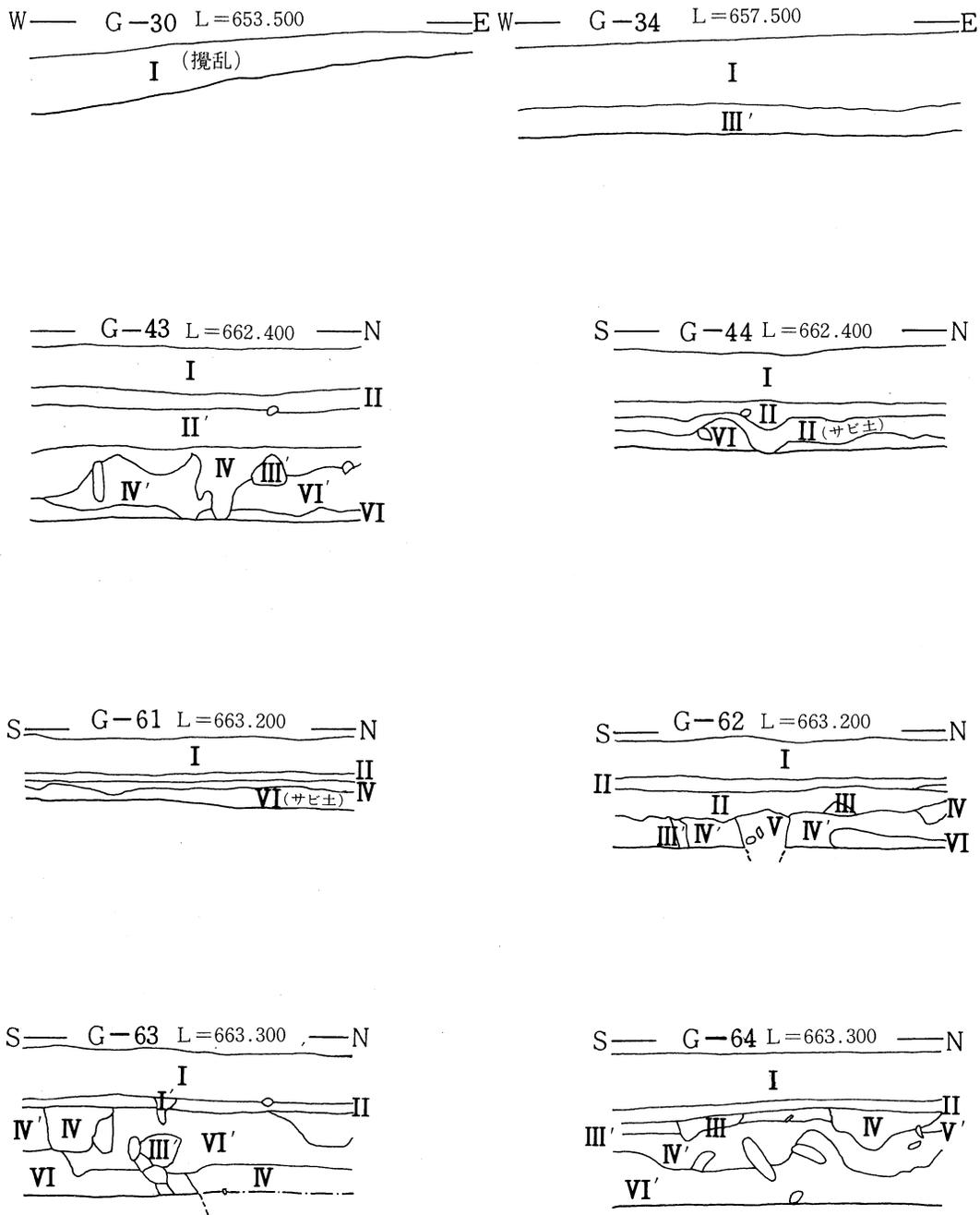


7. G-27北壁断面



8. G-28北壁断面





第7図 分布調査グリッド断面土層図3

1. G-30北壁断面



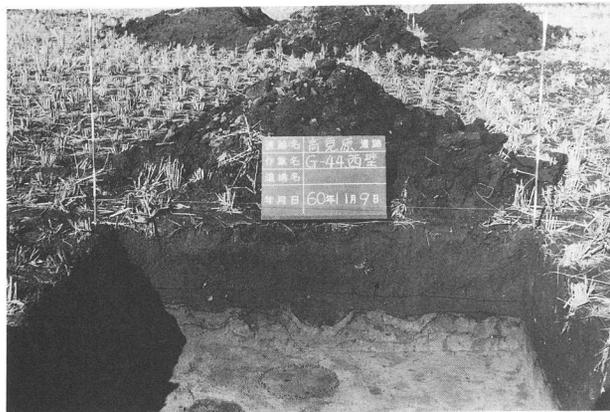
2. G-34北壁断面



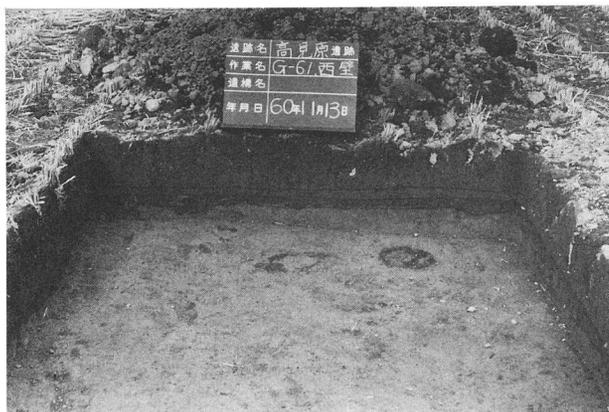
3. G-43西壁断面



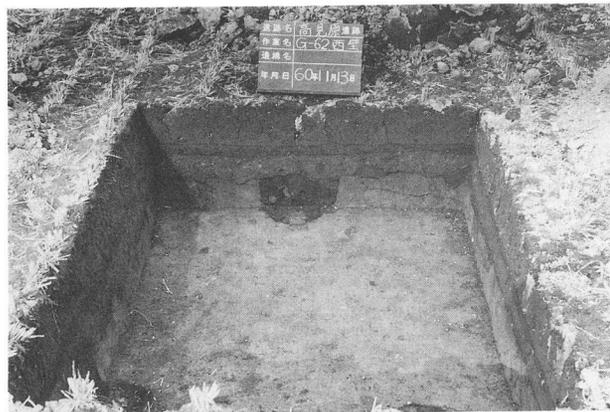
4. G-44西壁断面及びピット検出状態



5. G-61西壁断面及びピット検出状態



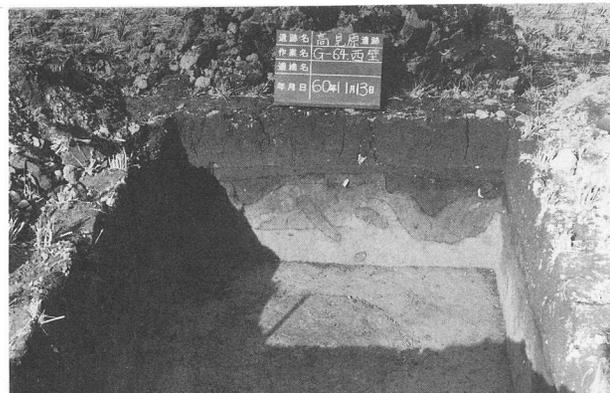
6. G-62西壁断面及びピット検出状態

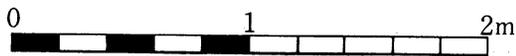
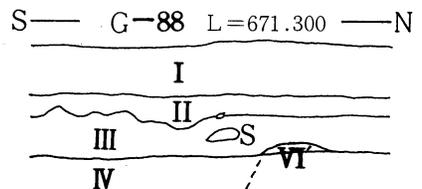
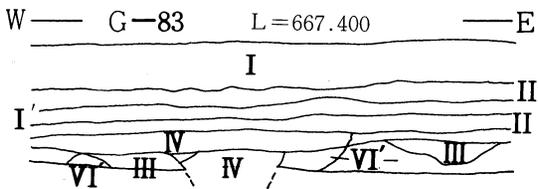
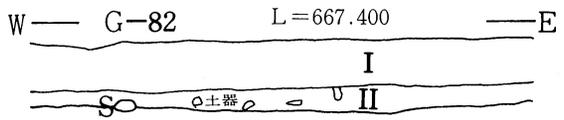
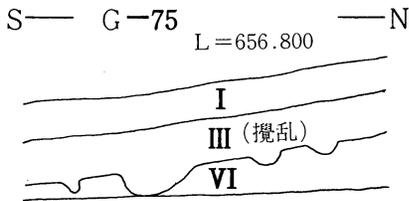
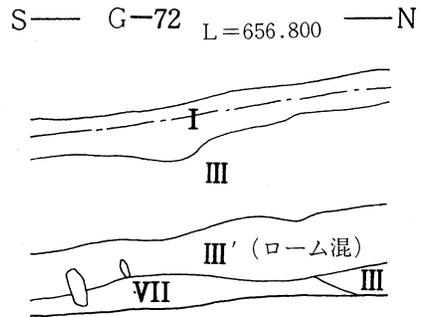
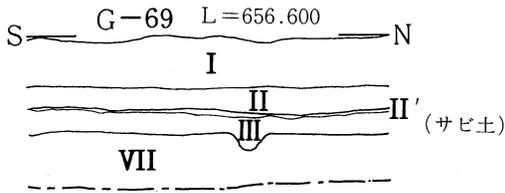
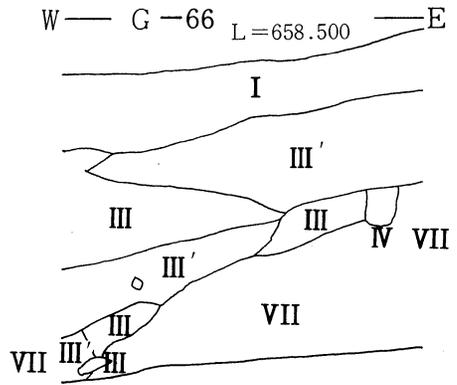
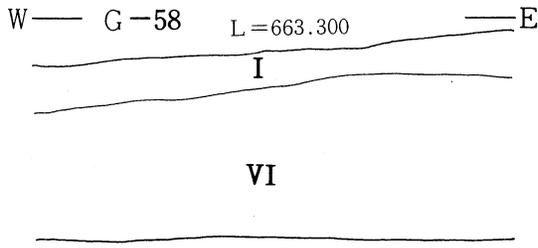


7. G-63西壁断面及び住居跡・立石検出状態



8. G-64西壁断面及び土壇検出状態



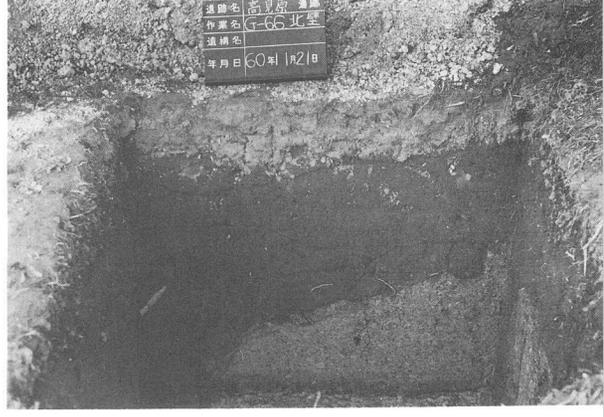


第8図 分布調査グリッド断面土層図 4

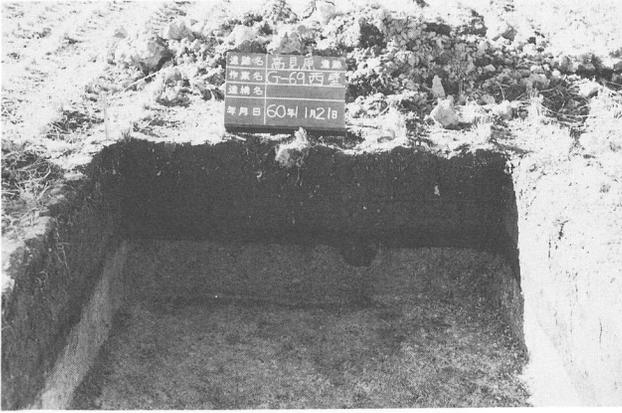
1. G-58北壁断面



2. G-66北壁断面



3. G-69西壁断面



4. G-72西壁断面



5. G-75西壁断面



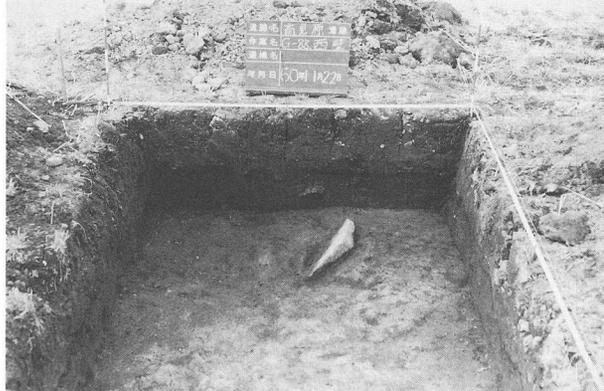
6. G-82及び調査団一同・見学者

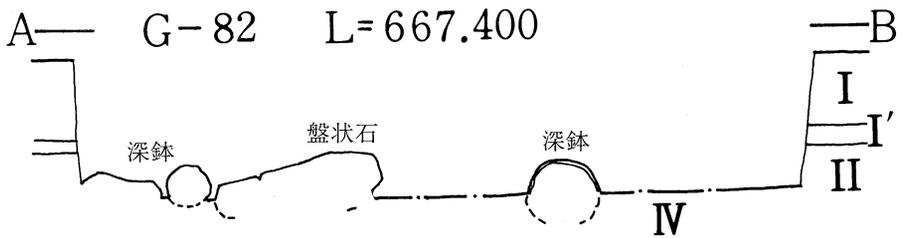
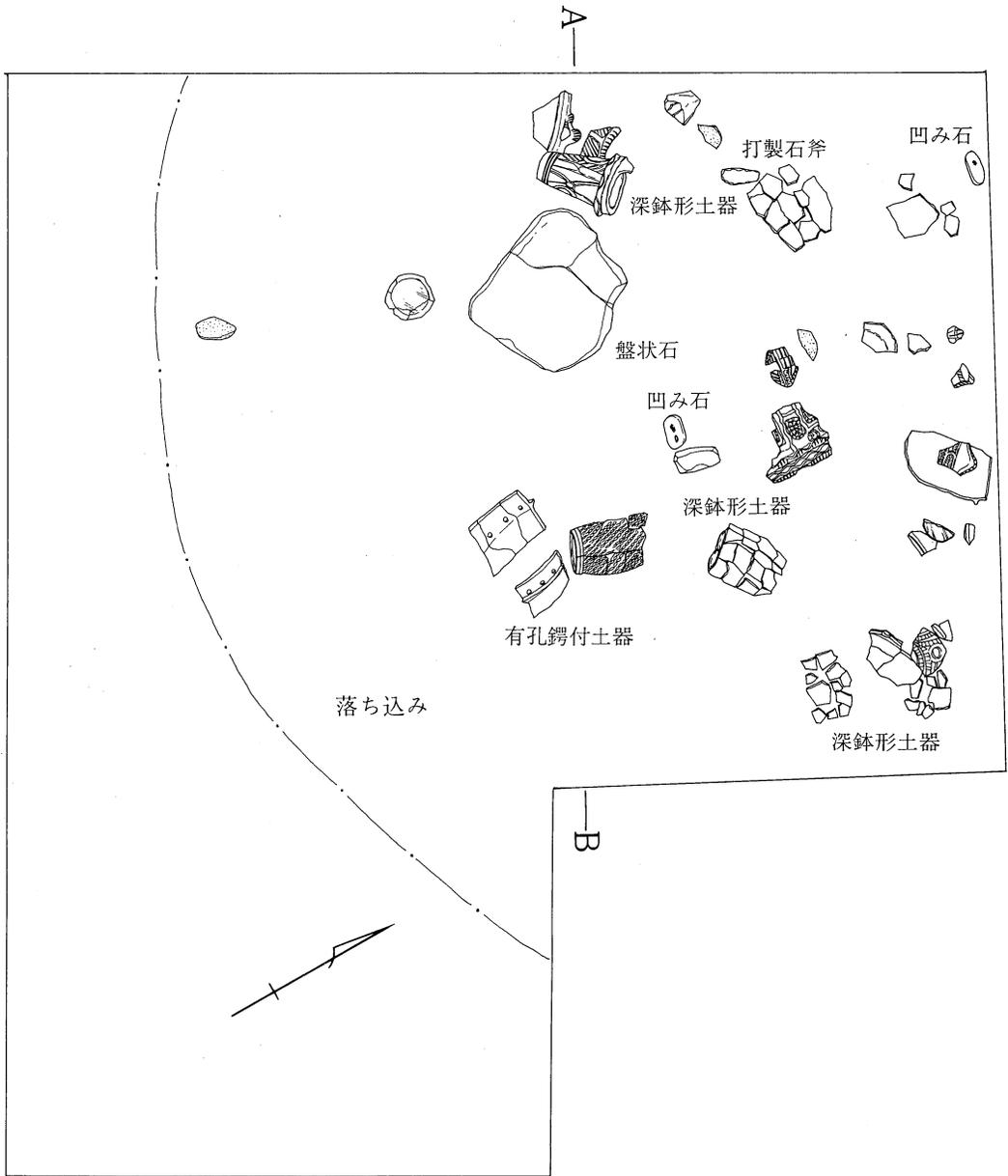


7. G-83北壁断面及びピット検出状態



8. G-88西壁断面及び住居跡検出状態





第9図 分布調査主要グリッドG-82遺物出土状態実測図及び断面土層図

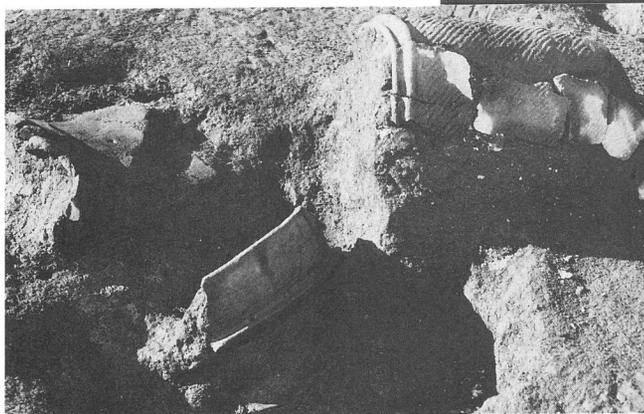
1. G-82遺物出土状態（南より）



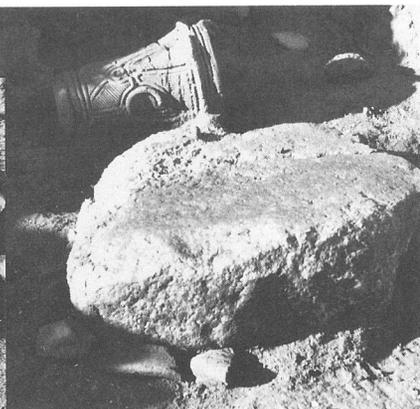
2. G-82遺物出土状態（北より）



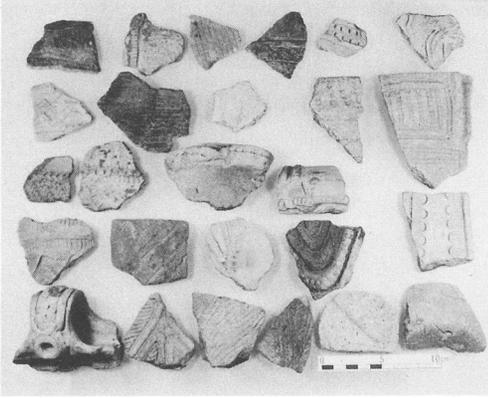
3. G-82有孔鏢付土器近景



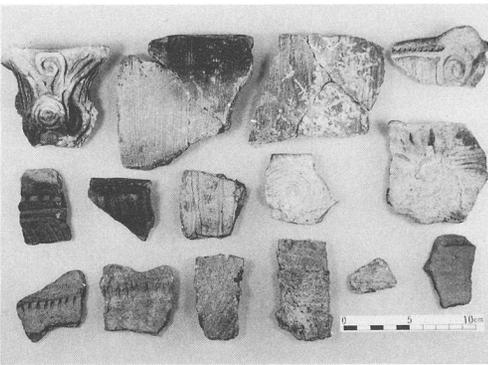
4. G-82深鉢形土器及び盤状石



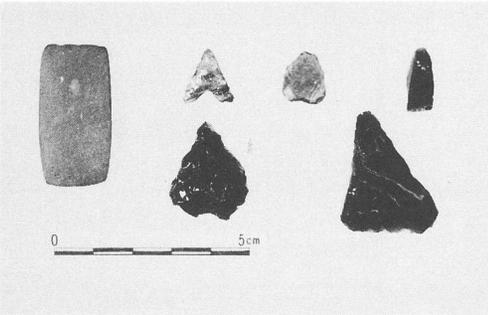
1. 縄文時代中期初頭～中葉土器



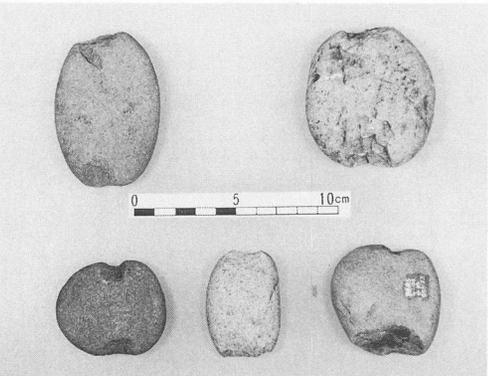
2. 同 中期後半・後期土器



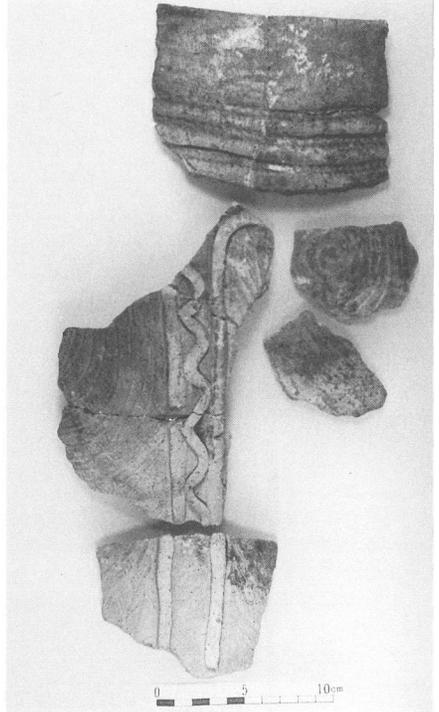
5. 小形磨製石斧、石鏃、ピエスエスキュー、スクレイパー



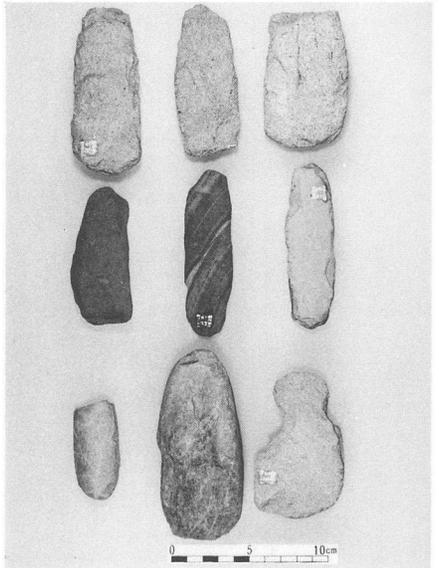
6. 石錘



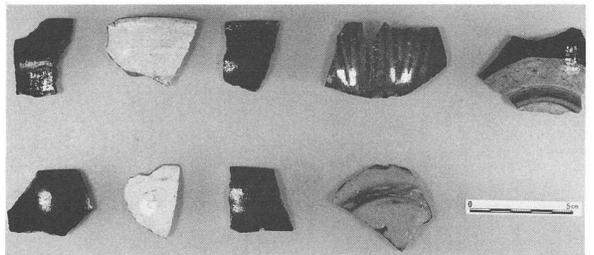
3. 同 中期後半深鉢形土器



4. 打製・磨製石斧



7. 古瀬戸後期及びび世陶磁器



---

---

## 高見原遺跡

— 詳細分布調査報告書 —

昭和61年3月20日 印刷

昭和61年3月25日 発行

編集 駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会  
駒ヶ根市上穂南2番15号 市立駒ヶ根博物館内  
(TEL) 0265-83-2719

発行 駒ヶ根市教育委員会  
駒ヶ根市赤須町20番1号

印刷 ほおずき書籍株式会社  
長野市中越293番地

---

---